

PRO-LIFE

胎児を守る運動

中絶に反対する運動

2000年12月No.122

いのちとクリスマス

神の聖言は「いのちの主」、「いのちに仕える者」として人と成り、人間の歴史の中に入ってこられました。「わたしが来たのは、羊(人々)が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハネ 10:10)。

一、聖霊によってマリアの胎内に宿られたイエスはエリザベットを訪問し、彼女を聖霊によって満たし、その胎内の子ヨハネをも聖化されました。マリアのエリザベット訪問は四人の出会いです。マリアとエリザベット、マリアの胎内のイエスとエリザベットの胎内の子ヨハネ、この四者の出会いです。この事実が「人間のいのちは受精の瞬間から始まる」と言う教会の教えの根拠となっています。教会が墮胎を殺人行為であると、神の名によって強調するのは、受精の瞬間から人間のいのちの営みが始まっているからなのです。

二、ヨハネから洗礼を受けたイエスは、聖霊に満たされ、聖霊の導くままに、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」(マルコ、1:15)と、しるしを伴う言葉を以て、神の国の福音を人々に延べ伝えました。「癒し」、これがイエスが行われた神の国の

しるしです。イエスは悪霊を追い出し、ハンセン病患者を清め、病める人を癒し、死者を生き返らせる奇蹟を行うことによって、神の国がご自身と共に、ご自身を通して人間の世界に現存していることを証言されました。しるしを通してイエスが人々に示された神の国、それは「いのちの充満」です。イエスは「いのちの与え主、いのちの奉仕者なのです」。「イエスは救いを世にもたらした」とわたしたちは信仰宣言しますが、聖書用語では「救い」と「健康」は同じ言葉です。イエスは病める人の健康を回復させることで、ご自身が救いの与え主であることをあかしされたのです。

三、福音書が記述している通り、イエスは多くの癒しの業(奇蹟)を行われました。イエスはそれを神の国のしるしとして行われたのです。すなわち、人々がイエスの行われる奇蹟を見て、神の国が地上に現存していることに気づき、イエスご自身が神の国であることを認め、イエスを信じて神の国に入ることを意図してたものです。それでイエスは、種々の奇蹟を見たにもかかわらず回心しなかった町をお叱りになられたのです。「イエス

は、数多くの奇蹟を行われた町が、悔い改めなかったので、叱り始められた。コラジン、お前は不幸だ。ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇蹟がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に……悔い改めてにちがいない」(マテオ、11:20-24)

イエスによって癒された人たちの健康は一時的なものでしかありませんでした。実際、彼らは再度病にかかり死亡しました。イエスが世にもたらしたいのちは一時的なのちではないのです。二度と患い、死亡することのない永遠の健康、永遠のいのちなのです。このいのちは、イエス・キリストを受け容れる信仰によって獲られます。だから、イエスの癒しの業は、信仰への招きであったのです。「あなたは、わたしを信じるか」「あなたの信仰があなたを救った」とある通りです。イエスを、あなたは生ける神の子キリストです」と宣言する信仰によって人々は永遠に尽きることのないいのちを得るのです。

四、人々に永遠のいのちを得させるため、イエスはご自分を十字架の死に渡されました。「イエスは、自ら十字架を背負い……ゴルゴタという所へ向かわれた。そこで彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に十字架につ

けた」(ヨハネ、19:17-18)。
スペインのバスク地方にあるザビエル城にザビエル家が大切にしていた十字架像があります。この十字架上のイエスのみ顔は、痛々しい苦しみの中にも、深い笑みをたたよわせています。「人々のために、このように苦しみ死ぬことができ嬉しい」というイエスの心情をこの十字架像の彫刻家は伝えているのです。「友のために自分の命を捨てること、これ以上の大きな愛はない」(ヨハネ 15:13)。
イエスは人類に対する愛に促されて、自らを死に渡されました。愛はすべてを喜びに変える力を秘めています。「愛のあるところに苦痛はない。もし苦痛があるとすれば、苦痛そのものを喜ぶ」(聖アウグスチヌス)。イエスは人々に対する愛に駆られてご自分の命を、喜んで多くの人の身代金としてお献げになられたのです。それは人々にいのちを得させるため、しかも豊かに得させるためだったのです。
このいのちの主、イエス・キリストの降誕をクリスマスは記念するのです。

長崎大司教 島本要



世俗的な理由と対立

新約聖書の中で、私たちが理解することが最も難しいと思う部分の一つは、マテオによる福音書 二：16、18で、その部分は、「罪もない者の虐殺」と呼ばれてきました。その出来事は2世紀以来ずっと重要視されてきました。そのことはまぎれもなく、賢者と、羊飼いと、かいば桶の中に横たわっている赤子に対して私たちが抱く、優しいイメージと対立するものです。実際、そのことを考えると身の毛のよだつ思いがします。どうしても、ベツレヘムの馬小屋の中で身分の卑しい赤子が生まれたことが、このような流血につながったのでしょうか。

世俗的な理由

世俗的な理由は、理解しにくいものではありません。ヘロデ王は自分の権力が奪われることをとても恐れていたのです。ユダヤ人の王の誕生の知らせを聞いたとき、彼はベツレヘムにいる2歳以下の男の子を皆殺しにするように命令したのでした。そのような命令は、そのような独

裁者の典型でした。彼は数えきれないほどの政治犯と共に、自分の妻のマリアンヌと自分の3人の子どもを含めて、たくさんの人を殺したので、ローマ皇帝アウグストゥスが、ヘロデ王の子どもになるくらいなら豚になったほうがましだと言ったほどでした。そのようにして、ヘロデ王は権力の座に居座ることを望んだのでした。

しかし、そのことはあまり注目すべき出来事ではなかったのです。多くの学者は、罪のないものの虐殺はたぶん起こらなかったのだらうと書いています。なぜなら、他にはそのことは書かれていないからです。しかしヘロデ王の時代には、人のいのちは安く、20人や30人の子どもを殺すことは記録すべき事件ではなかったのです。その子どもたちはたまたま、まずい時にまずい場所に生まれただけで、彼らの死は重要なことではなかったのです。

きつと、そのような考え方が、中絶に関する多くの人々の考え方なのでしよう。妊娠がまずい時にまずい場所で起こったので、

その適切な解決法は、それを取りのぞくこととなるのです。妊娠したことで女性は、自分の人生を思い通りにできなくなりうるので、殺しに関わることを望むのです。

対立

もちろん真実は、神はほかに計画を持っておられるという点で、そのことが、マテオがこの難解な物語を通して私たちに話したかったことなのです。自分の息子であるイエス・キリストの誕生でもって、神は神が造った世界を救う計画を実行に移し始められたのです。マテオは新約聖書の中（マテオによる福音書 一：22、二：6、15、17、三：3等）で、「このことは言われたことが成就するためである」と、繰り返し私たちに語っています。神の計画は、その目標に向かって前進しつつあります。しかし、そうなる対立が生じるのです。つまり神の計画はヘロデ王の恐怖心と野心とがぶつかり、神のもくろみは人間のもくろみに脅かされ、神の権力はこの世界の権力と対立するのです。

それはいつもこのようなものでした。マテオの話は、フアラオが全ての男の赤子を殺すように助産婦に命じたこと（脱出の書 一：15、22）を私たちに思い

起させます。この世の権力は全て神の権力と対立するのです。女性が中絶をしようと考えているときも、これと同じではないでしょうか。きつと神はその女性の胎児に対する計画をお持ちなのです。神は、全く無計画に胎内にいる新しい人間を造ったのではありません。神はその胎内にいる人間を世界の救済を目指した取り組みの中に、たぶん最も控えめな方法で、そしてたぶん現在進行中の取り組みの重要な一部として、組み入れる計画なのです。

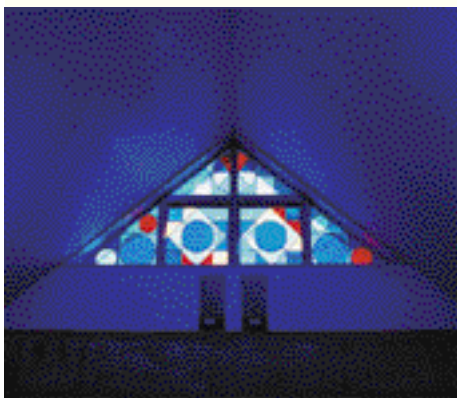
しかしそうであれば、全ての胎児に対する神の計画は、神に取って代り、自分の人生を思い通りにする決心をしている人間の恐怖心や、野心や、無関心や、当惑や、プライドとがぶつかることとなります。時々流産や死産という形において、神の目的が、私たちの遺伝子までも変えてしまった人類全体の腐敗とがぶつかっているのです。その結果として神が生かそうとした子どもが死んで生まれるのです。何らかの形で、この悪しき考えを持つた世界は、神の計画を台無しにしています。そして神は、胎内に造り出した何百万もの幼な子を奪われています。マテオならば、世界のいたるところで、「神の御使いの合唱は、ラケルが死んだ子どもたちのために涙を

流す嘆きに変えられている」と言うでしょう。

良き知らせ

しかし、神はこの世と人のいのちをつかさどっています。神が常に支配者なのです。だから良き知らせとは、イエス・キリストが私たちの人間の悲惨さを身をもって理解し、私たちの殺人を我が身のうちに取り去って下さいました。しかし、それだけで目的は終わりではありませんでした。キリストは昇天され、新しいのちがキリストに与えられているのです。そして誇り高き虐殺者や苦悩に打ち拉がれる者から、私たちは許されたキリスト教徒に変身することができ、そしてそのキリスト教徒は、実際、世界のための神の目的への大切な参加者になることができます。

エリザベス・ラクトマヤ



あのクリスマスに現われた羊飼

4年前、私の夫が49歳で亡くなった時、「リンダ、あなたには大勢親しい良い友達がいるじゃない」と言って、沢山の人が慰めようとしてくれました。けれど、そう言ってもらっても、私の心の悲しみ、痛みは、さほど癒されなかつたのでした。

誕の人形達をちり紙に包んでしまっている時に、子羊を落としてしまいました。かえば桶の中のイエス様の横に、満足そうに置かれていた羊達のうちの二つが、カーペットの上に落ちたのです。

その磁器で出来た羊に手を伸ばしながら私は、「私もあなたと同じように迷子だわ、かわいそうな子羊ちゃん」と思いました。その時、ルカの福音書の2章目の羊飼

マスでした。大学生の息子のジョッシュは休みの間は帰っていませんでしたが、友達と会うのに忙しく、私があんなに寂しくて悲しい思いをしているかを、もちろんわかつていなかったのです。私もその悲しみを皆に知られないようにしていました。皆に、自分の信仰心が弱いと思われるのは恥ずかしかったからです。

私にも、羊飼のような、寂しい私をやさしく気遣ってくれる人を待っていたのです。そしてその時、この地上に私にも天使がいることに気が付いたのです。友人のマーリンはクリスマスのために私の家を飾り付けてくれました。何日もいっしょにクリスマスカードを書いたのです。ケイトは毎日電話してくれ、そして私の為に祈ってくれます。マリンは私と

国でいっしょにいられたらどんなにいいだろう、と思いました。私はクリスマス飾り付けを外すことにしました。キリスト降

誕の地上に私にも天使がいることに気が付いたのです。友人のマーリンはクリスマスのために私の家を飾り付けてくれました。何日もいっしょにクリスマスカードを書いたのです。ケイトは毎日電話してくれ、そして私の為に祈

てくれます。ジーンは私が記事を書くときにパソコンを貸してくれます。メアリー・ベスは夕食に呼んでくれます。この愛しい友達は私を助け、見守ってくれていたのです。

12月27日に私は、憂うつなくクリスマスを楽しみクリスマスに変えてやろうと決めました。そして以下のようにしたらうまくいきました。

私は感謝日記という物を書き始めました。いかに自分が友達に恵まれてきたか、自分がないものでなく、あるもの的に絞って書くのです。そして受けた親切のお返しに自分ができる特別なことを書き留めておきました。

私は毎日きびきびと散歩することにしました。新鮮な空気を吸い心拍数が上がってくると、私の憂うつを追い散らすホルモンが分泌されるのです。天気が悪い時は近所のスパーの中を歩いて運動しました。

私は週の一日を神様と過ごす為にとっておくことにしました。その日はテレビや電話、新聞から離れるのです。一日中あるい

人工避妊についての法王の教えは明確である

最近ある女性が、妊娠を避けるべき深刻な理由がある場合は、避妊用のピルを服用するのやむを得ないとある司祭に言われたと発言しました。そして、病院付きのチャプレンをして別司祭もこれを取り上げ支持しました。その上、実際の後者の司祭は、ヴァチカンはこのようなピルの使用を認めておらず、発言しています。発言の根拠となる資料を求められた司祭は数日後、そのような証拠は何もないが、ヴァチカンがピルの使用を認めていると「理解」していたと報告しました。

このようなかたちで「理解」は、当然のことながら間違っており、ローマ・カトリック教会の教えに背くものです。こんな風に誤った教えはその日の午後を祈って過ごし、聖書を読んだり聖書について考えたり、その考えを日記に書くのです。

それでもやはり、クリスマスが憂うつになることも多いです。でもそれは、私の信仰心が弱いからではない、と自分でわかりました。それはただ、神様を特別近くに感じる必要があったという事なのです。神様だけが、私を憂うつなクリスマスからすくい上げて下さることが出来るのですから。

リンダ・カトルレル

が広まって物議をかますのは、信仰深い人々にとつて迷惑以外の何物でもありません。

彼らの発言とは裏腹に、夫婦間の人工的な方法での人工避妊を認めないというカトリック教会の立場は明確です。以下の言葉は、四年前、ローマ法王・ヨハネ・パウロ二世が、「責任ある出産」をテーマにしたセミナーを終えた五十人の司祭とその他の人々に対して語ったものです。

「ゆえに、人工避妊によって、夫婦間の性的な営みがゆがめられた時、その潜在的な生殖能力、つまり、この世に生まれ出る人間の存在を決定する力は神だけが持つものである。人工避妊をする夫婦は、自らを単に生命の源を保管しているように考え、生殖を神の創造に参加する行為とみなしていない。この意味で、人工避妊は背徳であり、決して正当化されるべきものではない。」

また、法王は、「責任ある出産」をテーマとして開かれたローマでの会議で、次のように述べています。

「...教会で教えられている神の掟に背くものは、その配偶者をも誤った道へ導くであろう。人工避妊についての教会の教えは、神学生たちによる自由な議論の対象になりうる種類のものではない。誤った考えを教えることは、配偶者の道徳的良心を誤った道に導くことに等しい。」

カトリック産婦人科医の立場での仕事

「バース・コントロールを処方しない医師は非常に珍しい。現在懸命に戦っているある医師を紹介しよう。」

今日、カトリック信者にとって最大の問題は何だろうか。中絶問題か、それとも家庭崩壊問題か。

キム・ハーディー医師によれば、その答えはバース・コントロールである。なぜならこの問題は離婚や中絶といった問題の根底にあるものだからだと彼は言う。

ハーディー医師はバース・コントロールについてありとあらゆることを熟知している。彼はアメリカに四万人いるといわれる産婦人科医の中で、道徳的理由から、バース・コントロールを処方しないほんの一握りの医師のうちの一人です。

しかし彼は常にこのような道徳的少数派に属していたわけではなかった。

きっかけは九歳の息子ブラッドの悲劇的な死であった。そのことよって彼はバース・コントロールを処方することはカト

リック信者としての生き方をまっとうしてはいないと考えるようになったのである。それ以来、彼は信仰の道徳的教えで妥協するよりも、自分の職業キャリアを危険にさらすことを選ぶようになった。

「ブラッドの死を迎えるまでの私は、外見だけではどこから見ても良いキリスト教信者だったと思います。私も妻も、教会の教えはすべて受け入れていました。バース・コントロールの教え以外は、です。」とハーディーは最近のインタビューで語っている。

息子は、学校の遠足中に車にはねられて亡くなった。息子の死を克服したあと、父親は自らの人生を見つめ直すようになった。彼は自分に問いかけた。「一体どんな理由で神は私をこんな目に合わせたのだろうか。」

ハーディーはバース・コントロールの処方が、自分と神の間に存在する最大の障害だと思い、今までのやり方を変えようと決意した。

妻、ポニーは、それまでバース・コントロールの問題とかなり戦って来たのだが、自分の夫が患者に処方しているのを見て、夫は

自分のしていることがわかっていはずなのだから、とあきらめかけていたのであった。

積極的な行動

しかしながら、「回心」したハーディー夫妻は、その日からバース・コントロールをやめた。それからというもの、彼は自分の患者にもバース・コントロールの処方を中止したのであった。

彼は、バース・コントロールに関する教会の教えをもっと広く理解してもらい、より多くの人に受け入れられるようにする事が自分に与えられた使命だと考えた。そして、同時に、他の信者の医師に、教会の教えを忠実に守ることによって、仕事が減少してしまわないということを知ってもらいたかった。

カトリック信者の間では避妊があまりにも普及していて、今では罪の存在にだれも気がつかないほど神への侮辱も責任を問われなくなってしまうと、とハーディーは嘆いている。

「信者の夫婦は、避妊は寝室での自分達だけの決めごとだと思っている。だれにも迷惑を及ぼすものではないと思っ

のだ。だが、実際は違う。」

ハーディーによれば、夫婦がバース・コントロールを選択すれば、その結果は子どもや地域社会にまで及ぶ連鎖反応を起こすのだそうだ。

「教会の教えを守ることで、親は子どもに自制心を持つていることを示せるのだ。また、そうすることによって、子ども達に結婚するまで焦らずにいることを教えられるのである。」とハーディーは言う。

さらに、それによって、子ども達には犠牲をとまなうことがあっても、教会の権力に忠実であることの貴重な例えを示すことができるのである。教会の教えに背くことは、姦通や結婚前の肉関係などにまつわる教会の他の教えにも背いていいと子ども達に思わせてしまうことになる。

「教会の教えに従うことは、あなたがいかに信者としての自分と救いについて誇りを持っているかを示してくれるのだ。なぜならあなたはこの地球上に存在するイエス・キリストの教会に従っているのだから。」とハーディーは語っている。

現段階で、だれもがバース・コントロールに関する教会の教えについて憤れているわけではない。だからハーディーが人前で話をするとき、まずバース・コントロールが地域社会にどんな影響を及ぼしているから始めるように

している。

彼はバース・コントロールと離婚の間に強い相関関係があることを強調する。バース・コントロールにおける教会の教えに忠実な信者は、離婚率が全体の5%に止まっている。

その一方で人工避妊をする信者では、他の地域の場合と同様に約50%の離婚率があげられる。しかも、中絶のうち80%がバース・コントロールの失敗によるものだとハーディーは主張する。夫婦生活以外でのセックスは今では「あたりまえ」になっ

信者としての立場に反する

「バース・コントロールは人間を自己中心的で実利主義的にする。それはカトリック信者としての教えに全く反することである。」とハーディーは言う。「バース・コントロールの使用は、自利の美徳を損なうことになり、良い結婚や生活における神の力の存在から人を遠ざけることにつながる。」

バース・コントロールがそれほど大罪でありながら、多くの家庭で当たり前とされているのなら、なぜ司祭は教会の祭壇からもつとそのことについて説

うとしないのだから。

「司祭は成り行きをただ見守っていたに過ぎず、人々のやりた放題にさせてきた。」とハーデーは考える。「あまりパース・コントロールのことを真剣に考える人がいないのである。本当は私達カトリック信者の生活に密接にかかわる問題をかかえているというのだ。」

司祭は大概、夫婦にパース・コントロールをすべきかどうか相談されればノーと答えるだろう、とハーデーは言う。だが多くの場合、信者が教会そのものから遠ざかってしまつのを恐れて、あえて対立しようとはしないのである。

ミサに通う夫婦には神の力がある程度働いていて、いずれ二人はキリスト教の教えの充実に気づく、という言い伝えがある。ところが実際はミサに通うというのは形式的なことが多く、もしミサでパース・コントロールの話が聞けないとなると、一体彼らは教会以外のどこでこの話が聞けるというのだろうか。残念ながら、中にはパース・コントロールが過ちであると知らずにいる人もいるし、ひどい場合は、教会の方が教えを変えることをひたすら待っている人もいるのである。

ハーデーはこの使命を果たすことが非常に困難であること

に気づいている。なぜなら人々が余りにも長い間真実から遠ざかって生きて来たからである。

「静かに、しかも確実に、人々をイエス・キリストの導く道へ戻すことが大切なのだ。」とハーデーは言う。カトリック教会がすすめる「自然な家族計画」(日本プロ・ライフ・ムーブメントの事務所にはこれについての本とビデオが用意されている。)について聞かれると、ハーデーは出産の間隔を置きたいと考えている夫婦にも十分有効であることを説明している。

カトリックの教会はそもそも罪人のための教会である。だからパース・コントロールを一度も使用したことがない夫婦を見つめるのもきつと難しいだろう。「何年もの間、私は自分が偉大なことをしてきたと勘違いしていました。知りたがっている夫婦にパース・コントロールを処方するのは良いことだと信じてきたのです。私のごまかしはそんな無知から起こっていたのです。」とハーデーは語る。

「明らかに教会は正しいのです。世の中を変えたいと思つたら、とにかく思い切つたことをやらなくてはいけないのです。そうすれば何かが少しずつ変わっていくのです。私達は神の与えてくださったものに目を向け直す必要があるのです。」

マーク・サラバン

神様からの贈り物

十一月に私は病気で危篤状態に陥つた。何日か病院で診てもらつた危険から脱出したものの、あまり調子は良くなかった。そんなにしゃべる気分になれなかつたので、夫のハルは私のベットの脇に座り、家族の皆や友達がどうしているか、等の話をしてくれた。ある日、夫は雑誌に載っていた記事で、そののちが沢山のの人に感動を与えたというある小さな男の子の話を読んでもくれた。その男の子の名前はマシューといった。「マシューという名前には『神の贈り物』という意味があるらしい。知らなかつたよ。君は知っていたかい？」とハルは尋ねた。

私はぼんやりと話しを聞いていたので、いいかげんに答えておいた。入院が終わり、私は喜んで家に帰った。帰宅してから数日たったある夜、ハルが見て欲しいものがあるんだ。それを見てあまり悲しまないといいたけど、隠しておくわけにはいかないから。」と言った。彼は私の隣に座り、私は小さな正方形の封筒から手紙を取り出した。

ジョーンズ夫妻へ

あなた方にお手紙を出すのは私にとつてとても心苦しいのですが、あなた方には孫がいる、という事を知らせたいのはよくないと、友人に説得されました。あなた方の息子さんのジョーさんは、私との結婚を望み

ませんでした。私が妊娠したと知った時、彼は私に中絶する様に、と言いました。ご存じの通り、彼はその内こから引越していきまされたから、私はその後彼と会っていません。

私はクリスチャンですし、中絶はしませんでした。私の両親と家族が助けてくれ、私は二年前に赤ちゃんを生まました。私は働いてこの子を育てていますから、ただ、あなた方にも孫がいる事を知っていただき、私達と共にこの子を愛して欲しい、と思つただけなのです。

ジョーは遠くへ行つてしまいましたし、赤ちゃんを欲しがらなかつたので、私は彼には赤ちゃんが生まれたい事を言っています。数か月前に彼に手紙を書いて伝えたのですが、返事はなかつたので、彼は赤ちゃんを受け入れなかつたのだと思います。あなた方も拒否なさるかもしれませんが、でもお知らせしなければならぬと感じたのです。

手紙は私の手の中で震えていた。心臓がどきどきし、気分が悪くなってきた。私はハルの腕をつかんだ。「こんなうそだわ。こんな事ないわ。」

私は何度もそう繰り返しながら、手紙に同封されていた写真を見つめた。可愛らしい小さな男の子が私を見つめ返して、心の中で私は、これは本当なんだと感じた。数分の間、

息子のジョーの事が頭から離れず、他の事は考えられなくなった。私は夫の方を向いて言った。「ああハル、何が起つているの? どうしたらいいから。」

「まったくどうしていいかわからないよ。ジョーは去年結婚したし、妻のウエンデーは数ヶ月後には子どもを生むんだ。どうする事もできないね。」

私は遠くにいるジョーとウエンデーの新しい子どもへの期待と興奮を思った。私は息子に関する沢山の質問を自分に投げかけてみた。彼はどうして中絶なんて言つたのだろうか? どうしてこの若い女性に背を向けたのかしら? 私達皆にとつて家族はいつても大切だった。私達の孫である幼い男の子がこの地上に二年間も存在していて、私達がそれを知らないでいたなんて、どういふ事かしら?

私の考えている事がわかつたかのように、ハルは又口を開いた。「私はウエンデーとジョーが今度の出産を楽しみにしている事を考え続けているんだ。そしてこの小さな男の子が誰にも知られないで生まれていたい事と思うんだ。」

ハルと私は長い間黙つて座っていた。やがて彼が沈黙を破つた。「どうする事もできないよ。ウエンデーに言う訳にはいかない。言つてしまつたら、彼女自身、二人の結婚生活、そして期待している赤ちゃんがどうなつてしまふか、考えてもみてごらん。」

「どうする事もできないわね。」と私も賛成した。「心がとても痛むわ。」

ジョー自身にも今回のジョーの対応にも、すごくがっかりしたわ。」

「私達にジョーの対応を指図する事はできないよ。もうすっかり大人なんだからね。私達は自分達の対応だけ、どうするか決められるんだ。」

私達は腕を組み合わせ、動揺した気持ちで静かに座っていた。苦しい心の中で、私は神に知恵と勇気を下さいと祈った。私はとても無力に感じた。私達はいつしよに祈り続けた。

疲れ果てて心は傷つきながら、私は裏に書いてある事を読もうと、写真を裏返した。すると涙で前が見えなくなり、喉もつまって声が出なくなつた。私は写真の裏を指差した。そこには子どもの誕生日と、彼の名前が書いてあったのである。マシユー、と。

「神様からの贈り物」と私はささやいた。「ハル、あなたが病院で話してくれたあのお話、マシユーというのは『神の贈り物』という意味だって教えてくれたの覚えてる？」

私達は初めて幸せを感じながら一緒に座っていた。ハルは正しかった。私達には息子の対応についてどうこうする事はできない。できるのは自分達の事だけ。私はその若い女性が名前と住所といっしょに書いてよこした電話番号を回した。

私が誰か、どうして私が電話したかを彼女が理解した時、私達は二人とも泣き出してしまった。彼女は「あなた方が私達を拒否するのではないかと、とても怖かつたのです。とても怖かつたから、お知らせするのに時間がかつたのです。」と私に言った。

「私達はあなたもマシユーも、拒否したりしません。」と私は言った。「マシユーは神様からの贈り物だ、と私達は思っていますから。」

私は入院していた事、そこでハルが私を楽しませる為にニュースやお話しをしてくれた事を話した。その内の一つはマシユーという名前の小さな男の子のお話で、その中にマシユーとは「神の贈り物」という意味だと聞いたことを説明した。

「名前の意味は知っていました。」彼女は言った。「その意味だから選んだのです。私が絶対に中絶はできない、と思つた時、ひたすら祈りました。神様は私に安らぎと希望を下さいました。この小さな男の子が生まれると私は彼に

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

- [201] 生か死..... + 郵送料
[202] 第二の処女生..... + 郵送料
[203] デート..... + 郵送料
[204] どうするの?..... + 郵送料
[205] "NO"という技術..... + 郵送料
[206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
[207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
[208] していましたか..... + 郵送料
[209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
[210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
[211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

- [301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
[303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
[304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
[305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
[306] ミニソフィアAceエース(税別).....7980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

- [401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
[403] ビリングス・メソッド...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
[404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
[407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
[409] 聞こえる? 天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
[410] ビル先進国・英国からの警告...(VHS).....15000 + 郵送料
[500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教え)...2987 + 郵送料
[501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
[503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
[504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
[505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
[506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
[507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
[508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
[509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
[511] (本) 赤ちゃん: 最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
[512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
[513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
[514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
[515] (本) 経口避妊薬: ピル.....100 + 郵送料
[516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

マシユーと名付け、よく神様を理解するように育てますと誓いました。彼は今二歳ですが、いっしょにイエス様について話したりします。」

愛を与えられるのである。すべての問題を解決する事はできないが、それ等に愛をもって対処する事はできる。ひよつとして問題を解決するという事は、どのように問題に向かつていくかという事に比べれば、あまり大切ではないのかもしれない。私達の問題への解決法はないけれど、私達の生活に愛が増えたのである。

celebrate life 9-10/96



[511] 赤ちゃん: 最初の十ヶ月の旅

[515] 経口避妊薬: ピル

Table with 2 columns: 注文 (Order) and 1部 = ¥ (Price per unit). Includes options for 1部 and 5部, and a 'フルカラー' (Full Color) option.

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

Table for 'パンフレット申し込は' (Brochure orders) with columns for quantity and price per unit.

組み合わせは自由です

Q&A

質問：セックスはお互いの関係を深めると思いますが、結合していると、求められ愛されていると実感できるからです！セックスで愛情を深め確かめ合い、将来の結婚に発展するとは考えられませんか？

答え：セックスで愛は育ちません。一方か或いは双方が相手を利用しようとする行為です。双方の愛がない例として売春は、個人の性的欲望を満たすために相手を利用するにすぎません。セックスがふたりの関係にもたらすのは短時間の快楽がいいところで、愛を築いたり長期的結びつきを保証するとは限りません。肉体関係による興奮で感情的に盛り上がり、実際以上に関係が深まったと思ひ込みかねません。後で真実に気付いてショックをうけ、悲しむのが目にみえています。

セックスがふたりの関係の邪魔をする場合はまだあります。結婚がうまくいかない最大の理由は夫婦のコミュニケーションがうまくいっていないせいです。肉体関係がふたりの結びつきを大半を占めるなら、じっくり話し合う機会も自然と少なくなるでしょう。お互いにとって大事な事柄を腹を割って話し合わない夫婦に問題は起こりがちです。

事務所便り

キリスト生誕二〇〇〇年も残すところ、はや一ヶ月のみとなりました。皆様にはお元気で過ごしてでしょうか。お伺い申し上げます。

今月一つのことを皆様にお願ひ致します。事務所の会計は底をつき、火の車となっております。どうかこのクリスマス、奮発して下さいますようにお願い申し上げます。

この運動の何よりも大きな仕事は毎月の『日本プロ・ライフ・ニュース』の作製と発送です。偶数月は、ローテーションを組んで、産婦人科や公立の中・高等学校にもピル反対の気持ちを含めて、私たちのプロ・ライフ資料『ピル：その安全性』の小冊子とともに発送しています。偶数月のその発送数は五千通にもなっております。これだけの部数を送るためには、皆様の祈りと暖かい心からの御支援がいつも必要です。

本当は、社会にいのちの大切さを伝えるこのような運動がなくなるほど、いのちが大切にされる社会になれば良いのですが、現実には次第に悪化してきているように思われます。特に、科学の発達に伴って、人間の胚が利用されだし、ES細胞、EG細胞と呼ばれる受精後一週間の細胞は、生きるチャンスを与えられず、次々と葬られている状況です。

まだ生まれていない小さいいのちのために…、望まない妊娠で困っている女性のために…、中絶を経験して苦しんでいる女性のために…、死の床にいる方と看病している方のために…、そしてまた、一般社会が広めようとしている避妊教育にストップをかける意味でも、いっしょにこの社会へ警報を鳴らすため、この生命尊重のニュースの力強い賛同者になって、莫大な切手代の御支援を重ね重ねどうかお願い申し上げます。あなたの献金が人のいのちを救うことになるのです。

クリスマスおめでとございます。